

〈学界消息〉

◇日本環境教育学会第2回大会（大阪）

本学会の第2回大会が1991年5月18日（土）～19（日）の2日間、大阪南YMCAを会場にして、500名強の参加の下、開催された。当日の発表内容などは下記のとおりである。

特別講演

5月18日（土）

「持続可能な発展と環境教育」

宮本憲一（大阪市立大学教授）

シンポジウム

5月18日（土）

「今、求められている環境教育とは－PART II－」

司 会：山田卓三（兵庫教育大）

話題提供者：中山和彦（筑波大）

「環境教育の国際的動向」

永吉宏英（大阪体育大）

「野外教育と環境教育」

山極 隆（文部省）

「学校教育での環境教育」

藤永延代（市民生協理事）

「市民レベルでの環境学習」

関連集会

5月19日（日）

テーマ：世話係

1. 環境教育とSTS教育

松原克志（東京工大・院 STS ネットワーク
ジャパン）

2. GREENプロジェクト・ワークショップ－河

川が結ぶ地球規模の環境教育ネットワーク－
原田 泰（通産省化学技術研究所）

3. 野生動物と環境教育（第2回）（D会場）

立沢史郎（かもしかの会関西）

高田 研（SMIL 環境教育研究会）

4. 環境教育としての冒険学校（フォーラム）

岩谷美苗・横山 緑（東学大・自然文化誌研
究会）

5. VTRによる「自然体験塾」の紹介－北の大地 の地球人（ア－シアン）－

田辺 勝（ア－シアンクラブ旭川）

6. 大学での環境教育，成人環境教育の経験交流 会

和田 武（愛知大学）

7. 学校教育における環境教育の展望－小・中・ 高の関連性をさぐる－

植田善太郎（泉大津市立条東小）

福島 古（東大阪市立花園中）

藤岡達也（大阪府立勝山高）

一般講演

5月19日（日）

小学校における環境教育の教材化「土の学習」

植田善太郎（泉大津市立条東小）

小学校における人とのかかわりを重視した自然観
察学習

菅井啓之（大教大附属池田小）

土壌と地球の水源地に着目した6年理科「人と環
境」の指導

柘植幹雄（宮崎県・上野小）

大阪府における環境教育手引書の作成について

播本裕典（大阪府環境保健部環境局環境政策課）

横浜市教育センターにおける環境教育研究「－プ
ロジェクト「横浜の自然環境の教材化に関する研
究」の発足－

丸茂 高（横浜市教育センター研究室）

平田昭雄（東京学芸大）

学校教育（中学校）における環境教育のプログラム

福島 古（東大阪市立花園中，G. E. C.）

防災教育としての環境教育

藤岡達也（兵庫教育大・院）

柴山元彦（大教大附属高校）

大阪府下の高校生の自然観に関する調査－特に高

校生の自然の定義と知識についてー

橋 淳治 (大阪府立高津高定時制)

下野義人 (大阪府立枚方西高)

高等学校「生物」の中での環境教育の取り組みについて

松本裕之 (大阪府立長野高)

地球を救う127の方法にみる高校生の環境意識

石井 隆・阿部健太郎・槌田 博・狩山広子・井口由紀・高橋優子 (環境教育研究会)

高校生のための自然観察コースの研究ー5年間の実践からー

河村重行・須々田頌一 (田園調布雙葉高)

専門学院における環境教育プログラムの実践に関する研究ー自然観察指導から環境教育へー

大島順子 (日本体育大)

環境問題に対する意識と行動ー専門学校生の実態調査からー

立沢史郎 (かもしかの会関西・京大・院)

環境のために行動する人間をどう育てるかー本学での農業散布を授業でとりあげた事例報告ー

中村洋子 (愛知県立芸術大)

環境教育の目的設定とその達成のための一試行ー小学校教育養成課程における『自然とつきあう講座』をめぐるー

北川 治 (仏教大)

生育した土地の自然環境の捉え方と環境変化の認識ー現代女子学生の生育環境と環境教育ー

楨村久子 (奈良文化女子短期大)

大学教養課程における環境教育実践

和田 武 (愛知大)

環境教育としてのSTSの必要性

松原克志 (東京工大・院)

三重大学における環境教育の実践ーSTS教育の視点からー

高山 進 (三重大)

歴史的視点を加えた環境教育教材の開発ーSTS教育の視点からー

鈴木善次・原田智代 (大阪教育大)

環境教育における歴史的環境の教材化に関する一考察

岩本陽児 (九州大・院)

文化の教育としての環境教育

田中敏久 (杉並区立高井戸第四小)

自然体験学習の効果と問題点

西谷好一 (園田学園女子短大)

動物であること、地球に生きていることを再確認のためのキャンプ

宮本和典 (東田辺かぶとむしクラブ)

感性を育てる環境教育ーガキ大将たちの自然観察からー

有馬忠雄 (大阪自然環境保全協会)

感性を通して郷土の自然を理解させる学習

向山 満 (三戸高) 山田卓三 (兵庫教育大)

地図遊びとまち歩きを通したまち環境学習に関する研究

八尾哲史 (大阪大)

環境教育としての体育

徳山郁夫 (千葉大)

松岡信之 (国際基督教大)

地球人めざす環境教育団体の創造ーアースアン・クラブ旭川が目指すキッズ・パワーー

三浦国彦 (旭川市立聖園中)

自然観察会に親が求めるものー自然観察団体会員の意識調査からー

戸田耿介 (兵庫県教育委)・渡辺和俊 (神戸市立妙法小)・工 義尚 (兵庫県立播磨南高)

姫路市自然観察の森における巣箱を使ったプログラムの実践例

箱田教只 (日本野鳥の会)

無農薬野菜の利用を柱とした家族ぐるみの環境教育ーいのちとくらしを守る会の実践から

石田康幸 (埼玉大)

都市づくりと環境教育ー谷中・上野の活動からー

小川 潔 (東京学芸大)

風景の作法ー秋吉台国定公園内の道路を考えるー

庫本 正 (秋吉台科学博物館)

5月19日(日)

自然認識と環境改善への実践活動

浅野邦美 (静岡学園高)

地域教材:梅田川「川上と川下ではどちらがきれいかわか?」ー梅田川の水質から下水道問題を考え

る一

小浜 明・江成敬次郎（東北工業大）
環境教育の教材としての樹幹円板の有効性
太田和夫（埼玉自然史博）・内藤ふみ（埼玉民俗
文化センター）・遠藤光雄（自然観察指導員埼玉
連絡会）
海（大村湾）を題材にした環境教育の実施例
浜田尚武・上田成一・松尾保雄（長崎県衛生公害
研究所）・石崎修造（長崎県環境保全課）
新たな森林利用と環境教育に関する一考察
関岡東生（東京農大）
環境教育の方法論とその実践に関する研究－5．
自然との一体感を得るプログラムについて－
木俣美樹男・川上確也・岩谷美苗（東京学芸大，
野外施設）
環境教育の方法論とその実践に関する研究－6．
環境教育プログラムのマニュアル化について－
岡本達治・中込卓男・佐藤雅彦（東京学芸大，自
然文化誌研究会）
UNESCO－UNEP の国際環境教育計画－第 1 期
にみる環境教育の基本的目的－
市川智史（日本環境協会）
海外における研究活動と自然保護：ザイール共和
国における事例から
五百部 裕（京都大・霊長類研究所）
アメリカの新環境教育法について
阿部 治（埼玉大）
環境文化論
岡 靖敏・井上有一・福島 古・赤尾整志（G.
E. C. グローバル環境文化研究所）
文化財を環境教育に生かす方法論
山口誠治（大阪文化財センター）
心とからだの環境教育（その 2）－冷水浴による
からだの環境づくり－
川村協平（山梨大）
しずけさの発見（しずけさコンテストの結果から）
大野嘉章（練馬区役所公害対策課）
兼吉勝史（サウンドスケープ研究機構）
みみをすます（音の世界に映る自然と私）
大野嘉章（練馬区役所公害対策課）
環境科学教育における教育内容の構成

丸山 博（北海道大・院）
環境教育の原理的考察－ニクラス・ルーマンのシ
ステム理論を手がかりとして－
今井重孝（東京工芸大）
環境教育で「ふさわしいと想定する自然」とはど
ういうものか
日下和信（大阪キリスト教短大）
環境的自然と人間的な自然
谷口文章（甲南大）
サケ放流による大衆の環境教育
杉浦公昭（東洋大・入間川にサケを放す会）
身近な環境づくりのための市民参加型イベント－
上町台地ウォーキングの企画とその評価－
西山健一郎（大阪市環保局）・榎元慶子（大阪市
環科研）・盛岡 通・城戸由能・近藤隆二郎・原
田弘之（大阪大）
環境教育プログラムに基づく都市型環境教育施設
の展開について
小河原孝生（生態計画研究所）
生涯教育のための環境教育カリキュラム
谷口弘一・鈴木順雄（北海道教育大）
環境教育と社会システム
千葉 亮（三菱総合研究所）
実験廃棄物の処理と環境教育
高月 紘（京都大・環境保全センター）
水環境を調べる方法(1)－化学分析の原理と応用－
原田 泰（通産省化学技術研究所）
河川環境保全における住民参加
土田貢司（東農工大）・小沢紀美子（東学大）
福島市内の二河川における汚濁状況と地域住民の
意識について
小泉泰宏・木村美智子・荒井富佐子・南 一守
（福島・桜の聖母短大）
河川源流域の水源地等の活用－環境教育の野外交
流の場！－
矢間秀次郎（三多摩問題調査研究会）
人里の自然の教材化－帰化植物と人為とのかかわ
りを中心として－
中川秀一（河内長野市立小山田小）

展示発表

5月18日(土)～19日(日)

「より良い環境をつくろう!!」葉書絵コンクール
発表者：河内長野市環境経済部環境保全課

インフォーマルミーティング

5月19日(日)

アメリカ人と国立公園

D. オースター (カンザス大学教授)

◇日本環境教育学会関西支部の活動(1989年12月～1991年10月)

本学会関西支部では、これまでに下記のような活動を行なっている。現在100名強の会員にニュース・レターを配布している。

○ワークショップの開催(話題提供者およびテーマ)

1989年

第1回(12/2)

金森正臣(愛知教育大学), 大高泉・遠藤晃賢(高知大学), 井上有一(奈良産業大学)

1990年

第2回(4/28)

米田 健(大阪教育大学)「環境教育から見たタイの森林」

第3回(6/30)

鈴木善次(

大阪教育大学)「最近の環境教育の動向」小野喜一郎(京都)「リトル・フィールド活動」

※日本環境教育学会関西支部発足

第4回(9/8)

菅井啓之(大教大附属池田小学校)「身近な自然をどう生かすか」

第5回(10/13)

恒石明男(吹田市環境部公害対策課)小川雅由(西宮市生活経済局保健環境部環境保全課)「行政の小学生を対象とした環境学習の実践」

第6回(11/24)

日本科学教育学会環境教育部会との共催
研究発表 6/パネルディスカッション

第7回(12/15)

岩井順一郎(豊中市立中央公民館)「社会教育としての環境学習のとりくみ：『豊中自然のふしぎ体験キャンプ』を通して」

1991年

第8回(2/23)

有馬忠雄(府立香里ヶ丘高校)「ガキ大将たちの自然観察」

第9回(3/30)

藤永延代(市民生協専務理事)「消費と環境学習：しろきた市民生協のとりくみ」

第10回(6/15)

鈴木善次(大阪教育大)「子どもたちに人間の可能性と限界を悟らせる：文明論の視点からの環境教育」

第11回(7/13)

谷口文章(甲南大)「自然概念と環境論理」・VTR「淡路島モンキーセンターからの報告：奇形ザル問題を追って」

第12回(9/21)

戸田耿介(兵庫県教育委員会)「自然観察会の運営と課題：兵庫県自然教室の実践活動から」

第13回(10/19)

日下和信(大阪キリスト教短大)「ゴミを考える—VTR『ゴミ問題入門』の紹介—」

○ニュース・レターの発行(『関西 ECOMAIL』)

第1号 1990. 8. 10

第2号 10. 13

第3号 1991. 1. 25

第4号 3. 15

第5号 5. 11

第6号 7. 1

第7号 9. 1

第8号 10. 1

第9号 11. 10

◇1991年筑波大学アジア農業教育セミナー

「アジア各国における農業教育と環境教育の結合に関する現状、問題点ならびに展望」

筑波大学農林技術センター、日本ユネスコ国内委員会主催の表記セミナーが、1991年10月13日～26日の14日間にわたり中国、インドネシア、韓国、マレーシア、ネパール、フィリピン、タイ、ベトナム、日本からの研究者の参加の下、開催された。

各国の報告およびシンポジウムのテーマは下記のとおり。

〔報告〕

中等農業教育における環境教育の役割

Susilowati (インドネシア)

環境的視点からみた韓国における農業教育と実習

Lee Kyu Seung (韓国)

環境保全を考慮した適正な農業経営のための水管理に関する理解

Mohd, Kamil bin Yusof (マレーシア)

ネパールにおける農業教育と環境教育の体系

Narendra Kumar Chandhary (ネパール)

フィリピンにおける農業教育と持続的な農業

Arturo A. Gomez (フィリピン)

タイにおける職業技術、農業教育計画

Nopakoon Siriwan (タイ)

ベトナムの学校における環境、農業教育の問題点

Vu Tuan (ベトナム)

日本における職業、技術教育の諸段階への環境教育の導入に関する現状と展望

生井兵治 (日本)

〔サテライト・シンポジウム〕農業教育と環境教育の結合

持続可能な農業と新しいパラダイム—生産・流通・消費の変革—

古沢広祐 (目白学園女子短大)

農山村エコミュージアムにおける環境教育プログラム

木俣美樹男 (東京学芸大)

学校教育における環境教育の実態と今後の課題

福田 直 (埼玉県立日高高校)

環境教育からみた農業教育

鈴木善次 (大阪教育大)